

新潟県女性センター情報 No.84

2011. 3. 7発行

地域セミナー開催報告

平成 22 年度に市町村や住民グループと共催した地域セミナーの一覧です。詳細については、財団事務局にお問合せください。

市町村・グループ	回	開催日	内容・講師等	
新発田市	1	5/29	講演「やってみよう！おてて絵本～おててから心みつめる～」サトシン（絵本作家） フリートーク「育児はママもパパもいっしょに！」サツシ（絵本作家）・藤田市男（エッセイスト）・松井弘恵（フリーアナウンサー）	
十日町市	1	6/16	保育ヘルパー 育成セミナー ～実践編～	「子どもへの読み聞かせの効果と実技指導」錦恵美子（新潟大学非常勤講師）
	2	6/23		「保育ボランティアの意義」角張慶子（新潟県立大学講師）
	3	6/30		「手遊びや子どもへの話し方等の実技指導」富井朝子（新潟県立大学非常勤講師）
	4	7/6		「心肺蘇生法・救急法の実技指導」十日町地域消防本部職員
	5	7/13		「保育現場体験」子育て支援センター職員
燕市	1	6/18	Brush up! Step	公開講座「男女共同参画ってなに？」福嶋秩子（新潟県立大学教授）
	2	6/25	up! しあわせに、	「こことカラダ my Balance」関島香代子（新潟大学准教授）
	3	7/2	暮らす わたしス	「色のパワーでしあわせづくり」山崎綾子（カラーセラピスト）
	4	7/9	タイル	「みんなでおしゃべり “しあわせ” なわたしにステップアップ」
長岡市	1	10/22	魅力ある会社になるために	重点課題抽出編 荒金雅子（株式会社カカア代表取締役）
	2	11/12	～わが社のワーク・ライフ・バ	アクションプラン策定編 グループワーク
	3	12/10	ランス推進プランをつくる～	発表・ブラッシュアップ編 荒金雅子（株式会社カカア代表取締役）
五泉市	1	11/20	働く女性のため	「今からはじめるライフプランニング！」松澤真弓（ファイナンシャルプランナー）
	2	11/27	の応援セミナー	「知ってナットク！～あんしんにつながる社会保障～」辻川明美（社会保険労務士）
佐渡市	1	11/25	「考えてみませんか？自分のワーク・ライフ・バランス」 ～仕事も生活も自分らしくイキイキと両立するために～ 川端美智子（新潟県女性財団法人人材育成事業アドバイザー）	
上越市	1	12/19	「パパも！ママも！やってみよう！おてて絵本～てのひらから広がる想像力とコミュニケーション～」サツシ（絵本作家）	
はっぴー コミュ (燕市)	1	11/3	「笑っている父親が子どもを育て、家族を幸せにする～ファザーリングのすすめ～」 安藤哲也（NPO 法人ファザーリング・ジャパン）	
Happy Balance (新潟市)	1	1/20	「走り出せる自分になるために～コーチングスキルを使って～」 Dr. フキコ（プラスビューカレッジ・プロコーチ）	
	2	1/27		
	3	2/3		

セミナー報告

「考えてみませんか？自分のワーク・ライフ・バランス

～仕事も生活も自分らしくイキイキと両立するために～

11月25日、佐渡市アミューズメント佐渡を会場に地域セミナーを開催しました。

佐渡市との地域セミナーは初めてです。

ワーク・ライフ・バランスをテーマに、当財団人材育成事業アドバイザーの川端美智子さんに講師をお願いし、事務局とともに海を渡りました。女性21人、男性14人、様々な年代の方がご参加くださいました。

講演では、ワーク・ライフ・バランスが必要な理由として、①働き方の二極化、②共働き世帯の増加と変わらない働き方・役割分担意識があり、女性にとっては継続就労、男性にとっては、家庭生活・地域社会への参画が重要であると話されました。参加者は自分のワーク・ライフ・バランスをチェックすることで、自分の仕事と生活を見直し、理想形についても考えました。参加者の感想では、「自分自身を見つめる良い機会になった」「業種・性別・年齢が違う人と様々な角度から話ができて大変参考になった」と好評でした。

佐渡市においても男女共同参画推進計画が策定されています。このセミナーによって、一人でも多くの方が自分のこととして関心を持つことにつながってほしいと思います。

定期講演会

2月24日、『働く女性とマタニティ・ハラスメント』の著者 杉浦浩美さんを講師にお迎えして、講演会「女性が働き続けることを考える～マタニティ・ハラスメントという問題～」を開催。

まずはじめに講師は、女性の就業を取り巻く状況を説明。第1子の妊娠・出産で退職してしまう女性が7割いる現実を取り上げ、これは戦後からあまり変わらない状況であるが、性別役割分業に関する意識が変化し、女性の就業意識も高まっているので、意識と現実のギャップが大きくなっていると指摘。また、育児・介護休業法などの就業継続のために利用できる制度はあるが、利用しづらい状況も多く、制度を利用できるのは限られた女性であるという。

次に、実際に妊娠期の労働においてどんな困難があるのかについて、講師自身が行った女性労働者へのアンケートと聞き取り調査から分析。一つめは「つわりなどをかくした」「認めてもらいたくて今まで以上に仕事した」など迷惑をかけたくないという自己規制。二つめに「大変になるのがわかっていて妊娠したんだろう」「気合が足りない」など妊娠を女性の側の「選択」「自己責任」とみなす職場側の論理。三つめに「そんなにお金がほしいの?」「なぜ辞めないの?」という「女性労働は必要悪」という旧来的な偏見などの職場のジェンダー意識。さらに、窓口業務からはずされるなど「労働から逸脱した身体」という意味づけや、労働からの排除などの事例を挙げた。

迷惑をかけない働き方が当たり前なのか。女性が働きやすい職場は男性にとっても働きやすい職場であり、妊娠している人にとって安全な環境はそうでない人にはより安全である。子どもを産み育てながら働くことへの理解と共感があり、職場に妊娠している人がいることは特別なことではないという共働き文化が必要。

最後に、これまでの男性労働者モデルの「ケアレス・マン」から、ケア役割を果たせて自分の身体もケアできる「ケアフル・パーソン」として、みんな事情を抱えながら迷惑をかけあいながら働ける社会が必要だと結んだ。

参加者からは、「初めて聞く言葉だが、職場環境改善を考える上で重要な切り口だと実感した」「マタニティ・ハラスメントの現状が理解できた」などの感想が寄せられ、女性が働き続ける職場環境づくりに対する関心の高さが伺えた。
(新潟県女性財団 企画運営委員 天尾貴子)

保育ヘルパーグループ

県内にはいくつかの保育ヘルパーグループがあり、子育て中でも勉強したい、社会参加をしたいという人たちが安心して活動できるよう、有料で保育のお手伝いをしています。女性財団では保育ヘルパーグループの活動を支援しています。講演会・学習会などで保育ルームを設置することがありましたら、お近くの保育ヘルパーグループに、ぜひ声をかけてください。

【下越地区】新 潟 市★保育グループ^{アシベ}ACB 連絡先 025-283-1485

★保育支援グループ MaRu 連絡先 025-285-8976

★保育ヘルパーマミーズ 連絡先 0250-24-1118

★保育グループえくぼ 連絡先 025-387-5955

村 上 市★保育サポート「だっこの会」 連絡先 0254-52-6624

阿賀野市★保育サポーターどんぐり 連絡先 0250-67-3967

五 泉 市★子育て支援グループたんぼぼ 連絡先 0250-42-2398

【中越地区】三 条 市★子育て支援グループかるがも 連絡先 0256-35-1905

長 岡 市★保育サークルたんたん 連絡先 0258-36-5432

★保育サークル「めだか」連絡先 0258-95-2715

見 附 市★保育サービス「ひよこ」 連絡先 0258-62-1019

十日町市★保育サポーターいちご 連絡先 025-757-4005

刈 羽 村★保育サポートまほうの手 連絡先 0257-45-3609

【上越地区】上 越 市★保育グループ「ママのポケット」連絡先 025-544-4806

糸魚川市★保育ヘルパーグループじゃんけんぼん 連絡先 025-566-5071



編集・発行／財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ2階／新潟県女性センター

TEL 025-285-6610 FAX 025-285-6630

E-mail npwf@npwf.jp

ホームページ <http://www.npwf.jp>